

平成30年度 **全国学力・学習状況調査の結果について**平成30年9月27日  
岡谷市教育委員会

「全国・学力学習状況調査」は、文部科学省が今後の教育施策や教育活動の改善に役立てるために、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年実施する調査です。

**1 調査の目的（文部科学省による調査）**

- ①国の義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- ③そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

**2 調査内容**

◎教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
-------------------	-------------------

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。 ※理科は平成24年度、27年度に実施し、本年度で3回目の調査となる。

◎生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童生徒に関する調査	学校に関する調査
------------	----------

**3 分析結果（岡谷市学力向上推進委員会による分析の概要）****【教科に関する調査】**

- 小学校では、各校の授業改善がすすみ、算数A・Bが県・全国平均と同程度、国語A・B、理科が県・全国平均を上回り、活用を問うB問題において力を発揮できています。
- 中学校では、国語A・B、数学A・B、理科ともに、県・全国平均と同程度であり、各校の授業改善の成果が見える結果となっています。

**【質問紙調査】**

- 小学校では、「自分によいところがある」、「いじめはどんな理由があってもいけない」、「算数・理科の勉強は大切。その学習は将来、社会に出たときに役に立つと思う」の割合が高い。「自尊意識」、「規範意識」、「学習に関する関心・意欲・態度」等の高まりにつながっていることが伺えます。
- 中学校では、「自分によいところがある」、「数学・理科の勉強は大切。数学ができるようになりたい」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」の割合が高い。「自尊意識」、「学習に関する関心・意欲・態度」等の高まりにつながっていることが伺えます。
- 小学校、中学校ともに、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもち、地域や社会をよくするために何をすべきか考え、地域社会などでボランティア活動に参加しようとしていることが伺えます。  
※今年度は、国語に関する質問紙項目はありません。

**4 今後の課題**

- ◇目的や意図に応じ、自分の意見や考えをまとめ、それが伝わるように話したり、感想文・説明文・意見文等の文章として記述したりする力を更に伸ばしたい。言語の力をつけるための取り組みは国語の時間だけでなく、全教科及び学校生活全般にわたって行いたい。（小学校、中学校）
- ◇家庭学習の課題（宿題）に加え、自分で計画して行う学習の時間を増やしたい。（小学校、中学校）

この分析を、各校の教育活動と授業改善に活かしてまいります。
-------------------------------

# 伸びる岡谷の子

《学校訪問の様子から》



学力向上  
アドバイザー

授業の流れが一目で分かる黑板、一人一人が活躍できるように配慮された少人数での話し合い、その時間に分かったことを振り返る授業の終わり方などから、授業改善が進んでいることを感じます。

子どもが、必要感や必然性をもって授業に向かえるよう、興味関心のもてる出来事や身近な出来事を学習に取り上げるとよいと思います。

身近な地域素材を生かした岡谷スタンダードカリキュラムなどを通して、子どもたちは五感で味わったことをもとに見方や考え方を広げ、自分なりに納得のいく判断をしようとしています。



学力向上  
専門官



学力向上  
アドバイザー

子どもの学び方に寄り添った学習プリント作成や、追究を助ける補助教材の工夫など、確かな学びにつなげる力をつける指導が増えています。

今、学んでいることについて、「自分ならこう考える」、「友達（社会の人たちは）はどう考えているのだろう」と、学習領域と自己と他者（社会）がいつも絡んでいくような授業を進めていくことで、子どもたちの思考力・判断力・表現力が高まっていくと思います。

教室の中のどの子どもにも分かる・できる「授業のユニバーサルデザイン（UD）化」は、主体的・対話的で深い学びを支える基盤になります。しかし、かたちだけを取り入れてもだめなんです。焦点化・視覚化・共有化などのUD手法を有効にするためには、子どもは一人一人、見方・感じ方・考え方・力量・特性が違うという子ども受容の姿勢をまず持つことが大切だと思います。

## これが学力向上のポイント

- ① 授業での理解がより確かなものになるよう、授業の内容と結び付けた家庭学習や、「なぜなんだろう」という疑問や課題を解決するために自分で計画し取り組む家庭学習を進める。
- ② 推薦本の紹介やブックトーク、読み聞かせなどを通して様々なジャンルの読み物に触れたり、読書量を増やしたりしていくことで想像力や表現力を磨き、自己形成の基盤をつくる。
- ③ 「生活科・総合的な学習の時間」を始め様々な教科で、体験的探求的な活動を大切にし、自分で課題を立て情報を集め整理し、調べたことを発表するなどし、日常生活で活用が図られるような学習活動に取り組む。また、「岡谷スタンダードカリキュラム」を活用し地域に根ざした学習を進め、ふるさと「岡谷」に学ぶ学習の充実を図る。
- ④ 中学校区や教科会ごとの小中接続・連携を進め、学習の土台となる学級づくりや授業改善を図る。特に、課題解決的な授業、子どもがかかわり合って発言する授業、考えたり書いたりする時間を確保した授業などをさらに進め、自ら調べ、自ら考え判断し、自分の言葉で表現する力の向上に努める。
- ⑤ 教員の授業力向上のために、
  - ・個々の教員が「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図り、互いの授業を公開し合っ
  - て授業力の向上に努める。
  - ・校長会、教頭会、市学力向上推進委員会等が中心となり、定期的に「現状と課題」の分析を丁寧に行い、学力向上専門官及び学力向上アドバイザーと連携し、授業改善を図る。
  - ・授業に生き、子どもに還る教職員研修会や他校他県研修、各種授業研究会の更なる充実を図る。

学力と心の成長は、車の両輪